

日本沙漠学会2022年 第33回学術大会 企画シンポジウム 「放牧酪農とSDGs」

- 主催：日本沙漠学会
- 共催：北海道足寄郡足寄町
- 日時：2022年6月11日（土曜日）13:00～14:40（受付12:30～）
- 会場：足寄町町民センター・多目的ホール（参加料 無料）

司会： 星野 仏方 酪農学園大学農食環境学群 教授

演題1 「放牧酪農とSDGs —北海道足寄郡足寄町を事例として—」
帯広畜産大学 人間科学研究部門 平田 昌弘 教授

演題 2 「牛とともに育む放牧酪農」
足寄町酪農家 北野 紘平 氏

演題 3 「放牧酪農による持続的な地域の発展」
酪農学園大学 荒木和秋 名誉教授



開催趣旨

日本沙漠学会は長年にわたり、地球環境問題を重要なテーマに、世界の乾燥・半乾燥地域における土地の退化と砂漠化の防止、乾燥地域で暮らす人々の生業の安定に繋がる調査・研究活動を行ってきた。日本には直接砂漠化の問題はないものの、日本の酪農には、耕作放棄地の問題、輸入飼料の問題、糞尿余剰による環境汚染問題など様々な問題が存在している。

以上のように日本の酪農・畜産が工業化する中において、大地の恵みである牧草を生かし、健康な牛をはぐくみ、豊かな生活を保障するのが放牧酪農である。放牧は、家畜を快適な環境下で飼養することにより、家畜のストレスや疾病を減らすアニマルウェルフェアそのものである。健康な土、草、牛から生まれた生乳や畜産物は低コストで生産され、安全で高品質であることから、消費者に期待されている。

こうした放牧酪農の様々な意義を理解して、多くの新規就農者が集まり地域が活性化しているのが北海道のほぼ中央に位置する足寄町である。

本シンポジウムは新規就農者が多く集まる日本一の放牧酪農が展開する足寄町で「放牧酪農とSDGs」の企画を行い、最前線で放牧酪農を研究している専門家と放牧酪農で収益を得ている生産現場の酪農家を招き下記の内容で講演会を行う。